

## 一步前へ。移転完了目前の自然科学研究科棟



新春の曙光に映える角間キャンパス南地区=1月2日

### 北陸における「知の鎮守」を 自覚して諸課題に挑戦 —学長が年頭のあいさつ—

林勇二郎学長は1月4日、部局長等を前に要旨次のように年頭のあいさつを行い、教職員が一丸となって諸課題に取り組むよう求めた。

4月には国立大学法人として2年目の正念場を迎える。「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」（金沢大学憲章）を目標に掲げ、引き続き、総合移転第II期計画事業及び宝町再開発事業の推進、並びに「学域」構想の実現を目指して、「器」・「枠組み」の整備を進める。本学は、人々が集まる場であると同時に人と文化が入り出す知の拠点であり、北陸地域の「知の鎮守」

という「社（やしろ）」に例えることができる。来るべき知識基盤社会にあつて、研究を通じた知の創成、教育による人材養成、地域における生涯学習の場としての本学の役割を自覚し、教職員の協力を得て、今年も決意新たに諸課題に挑戦していきたい。



部局長らを前に年頭あいさつ=事務局大会議室

### 目次

一步前へ。移転完了目前の自然科学研究科棟	1
北陸における「知の鎮守」を自覚して諸課題に挑戦 —学長が年頭のあいさつ—	1
巻頭言 アカデミック・ハラスメント	2
"卒業生は本学の基本構成員"各同窓会との連携強化を 目指して「関係同窓会代表者等懇談会」開く	2
21世紀COE（環日本海域）を テーマに先端研究フォーラム	3
環日本海地域の雪氷研究の役割を討論	3
医薬品産業における特許保護を 討論特許研究事業の公開シンポ	3

工学系重点研究経費の採択研究を学生・教職員に紹介	3
工学部、メンタルケア研修会開く	3
第6回薬学部FD研修会	3
21世紀COEプログラム （環日本海域）中間評価結果を受けて	4
金沢大学における e-Learning用教材開発とIT教育の推進	5
受賞	6
留学生、「金沢学」冬コースで 加賀百万石の歴史・伝統文化を学ぶ	6
本学の研究成果が海外技術移転に成功	6
金沢大学国際交流後援会との連絡会議	6
資料館から「石川県専門学校洋書目録」を刊行！	6

地域交流フォーラム「大学門前街をつくらう」を開く	7
海外研修の成果を報告	7
地震被害機関への支援と 法人化後の図書館運営など意見交換	7
ミニ講演 金沢大学資料館 —語りかける"モノ"たち—	7
RIトレーサー実験講座	7
関西学生リーグDiv. I入替え戦惜敗	8
留学生と楽しく交流 —留学生懇談会—	8
角間の里山でお餅つき	8
ベトナムから「シンチャオ！（こんにちは）」	8
編集後記	8

## アカデミック・ハラスメント



経済学部長  
横山 壽一

本年度からセクシャル・ハラスメント防止の取り組みがハラスメント一般に拡大され、対象とする領域が格段に広がった。なかでもアカデミック・ハラスメントが加わったことによって、ハラスメント問題は、とりわけ教員にとって一気に身近で重要な課題になってきた。そうした新たな対応が求められるなか、鹿野勝彦理事から総括相談員の職を引き継いだ。以後、緊張の日々を送っている。

セクシャル・ハラスメントは、なお不十分さを残しながらも、ここ数年でかなりの程度理解も進み、防止体制も整備されてきた。それに比べてアカデミック・ハラスメントは、問題への認識すらほとんどされていないのが現状である。アカデミック・ハラスメントは、「研究教育の場における権力を利用した嫌がらせ」と定義されている。例えば、講座・研究室の責任者である教授による助手への転退職奨励、昇任保留、研究費への差別的配分、研究機器の使用や出張の妨害など、教員による学生・院

生への暴言・暴力、留年・退学の強要、指導の放棄、不当な成績評価などがそれに該当する一例とされている。

なかでも大急ぎで理解を深めなければならないのは、学生・院生への指導の名のもとで行われるハラスメントである。「単位認定権」をもつ教員は、学生・院生にとっては「権力者」であり、教員と院生・学生の間には容易に支配・服従の関係が生まれる。教員が学生を励ますつもりで言った「そんな成績では卒業させるわけにはいかない」「もっと勉強しないと単位はやらない」などの一言も、信頼関係が損なわれてしまっている場合には、単位認定権という権力を利用した嫌がらせとして受け取られることになる。これまでは、教員の「個性」とか「裁量」として済まされてきた振る舞いの一つひとつが、人権の視点からその是非を厳しく問われるということである。

教員の間には、「そんなことで問題にされては指導なんかできない」との声が聞かれる。確かに、指導も成績評価も微妙な側面を持っている。とはいえ、権力を振りかざして服従させる行為は指導・教育とは別物である。小中高では、「こどもの権利条約」が制定されて以降、エセ教育行為による人権侵害防止への意識的取り組みが進められてきたが、大学はその点では残念ながら「無法地帯」に近い。大学外にも様々な支援組織・防止のための組織が設置されてきた今日、問題が一気に訴訟へと持ち込まれる可能性も絶えず存在する。そうした状況の大きな変化も踏まえた積極的な防止への取り組みが求められている。

## "卒業生は本学の基本構成員"

### 各同窓会との連携強化を目指して「関係同窓会代表者等懇談会」開く

12月16日夕、法・経・文同窓会、教育学部同窓会、理学部同窓会連絡会、理学部数学科同窓会、同物理学科同窓会、同地球学科同窓会、医学部十全同窓会、医学部保健学科つるま同窓会、薬学部同窓会、工学部同窓会金沢工業会及び旧制第四高等学校同窓会の代表者等計17名の出席を得て、法人化後初の「金沢大学関係同窓会代表者等懇談会」が市内のホテルを会場に開催された。本学からは同窓会担当の中村信一理事・副学長ほか理事及び職員が9名出席した。

中村理事は、冒頭のあいさつの中で「教職員・学生とともに卒業生を本学の基本構成員と位置づけ、大学情報の提供を行い、緊密な連携を図って行きたい」と述べ、学部・学科単位に組織されている同窓会の全学組織化に向け、協力を要請した。

各同窓会の代表者等からは、「大学は具体的に何を同窓会に求めているのか。卒業生への支援？それとも大学の応援団として？」「各同窓会の事務局を一本化する必要があるのではないか」「連絡網をしっかりと構築してほしい」など、多くの質問・要望が出された。

なお今後、年1～2回程度こうした代表者等による懇談会を開催するとともに、連携を強化していくことが確認された。



各同窓会代表が一同に会した懇談会

## 21世紀COE（環日本海域）をテーマに先端研究フォーラム

14年度採択の21世紀COEプログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」の研究をテーマに、12月16日、第5回先端研究フォーラムが開かれた。

まず、拠点リーダーの自然科学研究科早川和一教授からプログラムの研究概要説明があり、引き続き、同研究科矢富暉祥教授が「活断層と地震の力学的考察」、自然計測応用研究センター山本政儀教授が「放射性核種から見た環日本海域の物質循環」、同センター笹山雄一教授が「日本海の希少なあるいは特殊な動物と多様性」と題して、3人の事業推進担当者から研究発表があった。



＝自然科学本館104講義室

## 環日本海地域の雪氷研究の役割を討論

自然計測応用研究センターと21世紀COEプログラム（環日本海）主催で、「環日本海環境変動と陸水・雪氷圏」に関するワークショップが12月15日に開催された。会では、日本雪氷学会北信越支部の協力を得て、雪氷研究の専門家から情報提供があった。また、北陸地域における降雪が微妙な環境・気候バランスを反映したものであることや、環境指標としての雪氷研究の役割などについて議論され、出席者は、今後の環日本海研究における雪氷研究の重要性を再認識した。



＝自然科学本館201講義室

## 医薬品産業における特許保護を討論 特許庁研究事業の公開シンポジウム

今年度本学が採択された特許庁研究事業「平成16年度大学における知的財産権研究プロジェクト」の公開シンポジウム（本学主催）が12月10日、大阪市内のホテルで開催された。

「医薬品産業における競争の実態と法的環境～薬事法・知的財産法・独禁法の観点から～」をテーマに、製薬企業関係者、厚生労働省及び特許庁実務担当者、独禁法研究者がそれぞれの立場から講演した。その後、医薬品産業における特許保護の重要性と医薬品分野における特許権付与のもたらす問題点についてパネルディスカッションが行われ、出席した製薬企業関係者、弁護士・弁理士、大学研究者・産学連携担当者が、薬事法・知的財産法・独禁法という視点から、活発な議論を展開した。



パネルディスカッション

## 工学系重点研究経費の採択研究を学生・教職員に紹介

11月30日、工学系で本学の重点研究経費に採択された研究プロジェクト5件の講演会が開かれ、教職員、学生約60人が参加した。各プロジェクトは将来21世紀COEプログラムへの発展が期待されており、講演会では各担当者から、部局を横断するプロジェクトの研究内容、今後の展望等について、分野の異なる研究者にもわかりやすく説明があった。



あいさつする岡島 厚工学部長  
＝工学部秀峯会館中会議室

## 工学部、メンタルケア研修会開く

工学部は12月1日、教職員に学生のメンタルケアへの対処方法を学んでもらおうと、メンタルケア研修会を開き、約60名が参加した。

研修会では、学生のカウンセリングを担当している保健管理センターの鈴木健一助教授から、学生相談事情を中心に「不登校の場合、無理に登校させずに、不登校期間を完結させることも次のステップへの重要な過程」など説明があり、出席の教員からは、「不登校の場合、下宿先等へ踏み込むことは問題か」など実際の事例を含め活発な質疑があった。



質問する出席者＝秀峯会館中会議室

## 第6回薬学部FD研修会

薬学部は12月11日、第6回FD研修会を開催した。研修会は平成11年より毎年開催しており、今回は講師以上36名の教職員が出席した。午前は、石橋弘行薬学部長による「薬学部および大学院薬学系における諸問題」について講演があり、午後は小グループに分かれて、18年度から導入される薬学部6年制と併設される4年制学科の理念等について討論した。



講演する石橋薬学部長＝金沢市内のホテル

# 21世紀COEプログラム(環日本海域)中間評価結果を受けて

昨年11月末に公表された21世紀COEプログラムの中間評価結果では、14年度に採択された本学COE「環日本海域の環境計測と長期・短期変動計測」は、評価②「目的達成には一層の努力が必要」と評価された。この結果について、拠点リーダーの自然科学研究科早川和一教授にインタビューした。



早川 教授

－これまでの研究の成果は？

これまで、①大気環境、②環境放射能、③陸水・気候変動、④地殻・古海洋、⑤水・土壌環境、⑥生態系の6つの領域で研究を進めてきたが、特に、人為起源である大気環境や環境放射能領域では、中国、韓国、ロシア、日本各地に観測地点を設置し、国内外の機関とのネットワークの構築が順調に進んだ。

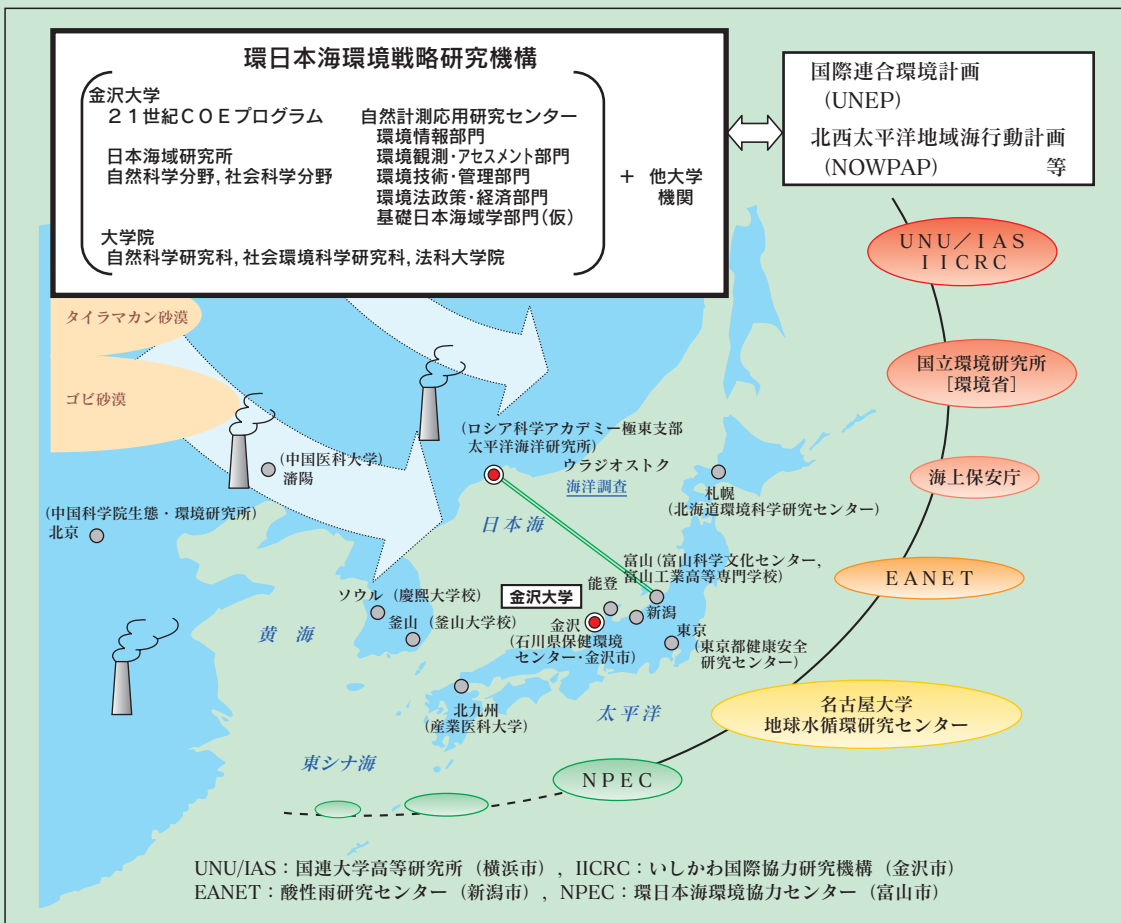
大気・放射能領域の成果として、①ディーゼル車が大气汚染の一番の原因である日本・韓国と、石炭を原因とする中国・ロシアでは異なる対策が必要、②大気汚染が進む中国・ロシアでは、長期的影響によるがんや環境ホルモン物質への対策が課題、③中国などで発生した有害物質が上空で起こす化学反応によって気候変動が起きる可能性がある、ことがわかってきた。また、里山における周辺生態系の変動の観測でも一定の成果をあげた。

－評価で不足とされた点は？

日本海の水汚染の原因や予測に関する研究はほとんど手つかずだ。これまで国の政策からも国際的取組みからも抜けていた。政治的に異なる体制の国が関係し、産業や経済が急速に発展した環日本海域では、政治・経済・産業の各視点をからめながら、国内外の研究機関との連携・分担が必要だが、このような視点と連携が不足していた。ようやく、日本海側各自治体や機関の協力を得て、河川・沿岸の調査データ収集を始めたところであり、近々ロシア科学アカデミー極東支部研究所と共同の海洋調査も始まる予定である。

－評価に対する受け止めと今後の課題は？

プログラムの欠点と課題を指摘した評価は、的確なものを受け止めている。今後は、本COEに欠けている部分（例えば海）に絞って資金と人材を重点配分し、他の領域でも政治・経済・産業を見据えた方向性を持つ研究が必要だ。



また、国内外で連携研究機関を絞り込み、共同研究体制やネットワーク構築が重要だ。これら国内外の各組織が参加する「環日本海環境戦略研究機構」という枠組みを立ち上げ、戦略的会議を開く。これを金沢大学の目玉となる国際組織にしていきたい。学内では、プログラム期間終了後も、自然計測応用研究センターを発展的に充実させて研究を継続させ、総合大学の強みを生かして社会科学分野の研究者との連携も深めていく。プログラム研究期間の5年間で、すべての課題が達成できるものではなく、今後の発展・展開に注目してほしい。

## 金沢大学におけるe-Learning用教材開発とIT教育の推進

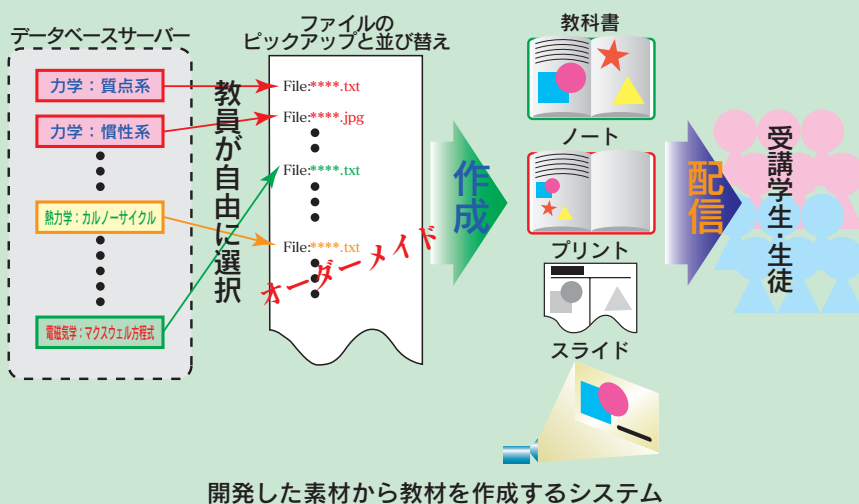
文部科学省は平成16年度から「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」として、特に優れた教育プロジェクト（取組）に財政支援を開始した。本学は、「ITを活用した実践的遠隔教育（e-Learning）」のテーマで、総合メディア基盤センターと大学教育開発・支援センターが中心に提案した「IT教育用素材集の開発とIT教育の推進」が採択され、橋本哲哉理事を中心にIT教育推進プログラムが発足し、全学体制でIT教育推進に向け動き出している。

これまで本学では、費用・時間・技術の不足などから、内容の充実したe-Learning教材を開発できなかったため、e-Learning導入が進展しなかった。

そこで、本取組では、「正規授業へのブレンディドe-Learningの導入」を主目標とし、

- 対面授業においてマルチメディア（様々な図や写真、動画等を用いたシミュレーションなど）を活用し、学生の興味をひき、講義内容のより深い理解を促す。
- ネットワークを活用した予習・復習・課題演習などの自己学習システムを構築し、大学設置基準の定めによる1単位45時間の実質化を図る。

の2点を実現させるために必要なe-Learning教材を開発することとした。



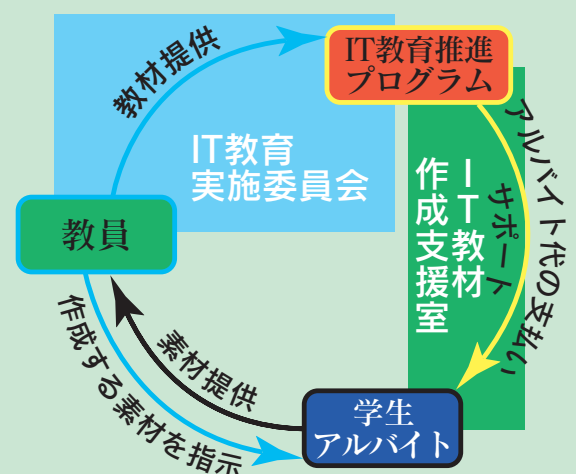
本取組の特にユニークな点は、教材作成に必要な素材（図や写真、テキストなど）を素材単位に開発し、データベース化する点にある。データベース化された素材は、特に制限がない限り、教員が自由に使用することが可能で、これにより、それぞれの教え方に合ったe-Learning教材を簡単に作成することができる。

また、この取組では、学生・院生をアルバイト雇用してIT教材を開発することが可能で、そのための費用はIT教育推進プログラムが負担する。必要と認められた場合には、開発のための機器等の貸し出しも行っている。さらに、教材開発のための「IT教材作成支援室」が設置され、技術的なサポートも受けられる。

現在、全学から集まった30数名の教員らが構成する「IT教育実施委員会」（以下、「実施委員会」という。）のもとに、学部1、2年生向けの基礎科目を中心に20以上の教材開発申請があり、いくつかの教材については既に開発が始まっている。

実施委員会では、IT教材作成に興味を持つ本学教員の参加を募っている。特に、人文社会系e-Learning教材の開発が遅れており、人文社会系教員の積極的な参加が期待される。

連絡先：IT教材作成支援室  
電話：076-264-6244  
E-mail：it-sien@el.kanazawa-u.ac.jp  
HPアドレス：http://www.el.kanazawa-u.ac.jp/



## 受賞

◆KUTLOが北國銀行産業振興財団から表彰  
 (有)金沢大学ティ・エル・オー (KUTLO) は、平成16年度の県内産業の振興と発展に貢献した企業として(財)北國銀行産業振興財団から表彰を受けた。本学及びKUTLOの産学連携への取組みを評価されたもの。12月17日に北國銀行本店にて行われた表彰式には、板垣英治代表取締役社長(本学名誉教授)が出席した。

### ◆金沢市文化賞

寺田喜久雄名誉教授(元理学部長)は11月3日、金沢市文化賞を受賞した。各種金属吸着体の創案と超微量金属の迅速濃縮・分離法の研究、地域の環境保全への貢献、小中学生の理科教育振興への尽力などの功績が評価されたもの。

## 本学の研究成果が海外技術移転に成功

医学系研究科 山本 博教授の研究グループの発明が、本学の研究成果の海外技術移転第1号として、高岡市の第一ファインケミカル(株)と、本学との間で特許実施許諾契約が締結され、今年から「糖尿病合併症の診断試薬キット」として欧米を中心に全世界に販売されることとなった。

これを契機に今後も他の発明で技術移転が促進されることが望まれる。



販売される「糖尿病合併症の診断試薬キット」

### ◆法学部3年 佐伯奈緒美さん

「第4回U-30大賞」(文芸社)受賞の小説『離魂』を刊行  
 法学部3年の佐伯奈緒美さんが執筆した小説『離魂』がこのほど、文芸社(東京)が主催する「第4回U-30大賞」の大賞に選ばれ、同社から刊行された。『離魂』は学校でのいじめをテーマにしたサイコホラー小説で、佐伯さんの小説刊行は、本学学生初の作家デビューとして地元マスコミでも多く紹介された。



佐伯奈緒美さん

## 金沢大学国際交流後援会との連絡会議

12月2日、金沢大学国際交流後援会の常任理事会役員と本学関係教職員との連絡会議が開催された。平成16年度の後援会活動状況報告の後、今後の募集方策等について意見交換が行われた。



左から、堂井吉昭副会長、佃一成会長、北 実常任理事、北尾強也常任理事

## 留学生、「金沢学」冬コースで加賀百万石の歴史・伝統文化を学ぶ

平成16年度金沢大学社会貢献推進事業として加賀百万石の歴史・伝統文化を学ぶ「金沢学」講座冬コースが12月18日、19日の両日開催された。

参加した本学及び石川県内各大学の留学生と日本人学生は、18日に石川県立歴史博物館北副館長から、加賀藩の歴史、美術工芸について講義を受けた後、キゴ山ふれあいの里研修館で「金沢の食文化」を学び、「加賀の郷土料理」の実習を行った。19日は「和太鼓」を体験学習し、北室南苑氏(書・篆刻家)から、陶芸・料理・書・篆刻・古美術等多才な文化人『北大路魯山人』と金沢の文化の深いつながりについて説明を受け、理解を深めた。



おいしい「れんこん汁」ができるかな  
 =12月18日、キゴ山ふれあいの里研修館



講師の身振りをまねて和太鼓に挑む  
 =12月19日、同

## 資料館から『石川県専門学校洋書目録』を刊行！

石川県専門学校は明治14年7月に金沢市仙石町(現金沢中央公園内)に開校した専門教育を目的とした県立学校である。同校は明治21年に国に移管され第四高等中学校(明治27年に第四高等学校と改称、昭和24年に金沢大学となる)となった。

このたび資料館は板垣英治名誉教授

(資料館客員研究員)の編集にかかる『石川県専門学校洋書目録』を刊行し、同校が国に移管されたときの資料「旧石川県専門学校敷地並資産引継書類及目録」をもとに、同校の蔵書の体系を明らかにした。これにより西田幾多郎等を輩出した石川県専門学校の実体、また明治初期の高等教育像を知ることができる。



刊行された目録に記載の書籍(附属図書館蔵)

## 地域交流フォーラム 「大学門前街をつくろう」を開く

12月7日、本学の門前街である杜の里・若松・鈴見地区の住民と学生・教職員らによる地域交流フォーラムが開かれ、約40人の参加者が大学門前街づくりについて意見交換した。

今年で3回目となる同フォーラムでは、杜の里まちづくり委員会の瀧憲三理事と市村銑治事務局長から若松・鈴見地区土地区画整理事業の現状について紹介があり、また、山本秀樹地域貢献コーディネータから本学の地域貢献事業について報告があり、意見交換が行われた。

「地域と共同で街づくりを進めたい」と希望する教職員に対して、住民や学生からは「大学が発する情報に、地域住民は良い反応を示したい」、「学生が過ごしやすい街にできたら良い」などの意見が出され、引き続き交流を進めることを確認した。



地域住民からの意見に耳を傾ける参加者

## 海外研修の成果を報告

12月13日、事務局大会議室で職員海外研修プログラム 帰朝報告会が開催された。報告会では、まず文部科学省の研究マネジメント担当職員キャリアアッププログラムで約3週間、フィンランドで実地調査を行った文・法・経済学部学務第二係 奥村陽子主任が、ユバスキュラ大学とヘルシンキ工科大学の留学生教育や研究評価等に関して報告した。

引き続き、金沢大学教育研究支援職員海外派遣研修で約1ヶ月間、中国で語学研修を受けた研究国際部国際課国際学術係 上地進係長が、南京大学海外教育学院における語学研修に関する成果を報告した。



報告する奥村主任（上）と上地係長（下）

## 地震被害機関への支援と法人化後の 図書館運営など意見交換

11月25日、金沢市内のホテルで北信越地区国立大学附属図書館事務部課長会議が開催された。最初に、新潟大学から中越地震の被害について報告があり、今後必要に応じて地域として支援する必要性が確認された。

次に、10月に京都大学で開催された国立大学図書館協会理事会の報告、法人化後の財政状況を踏まえた図書館運営の取組、電子ジャーナル予算の確保のための方策、時間外開館のための予算確保、など多様なテーマについて議論が交された。



会議の冒頭、あいさつする橋本哲哉理事

## 三二講演 金沢大学資料館 —語りかける"モノ"たち—

〇月 日：12月18日

〇講 師：笠井 純一

資料館長・文学部教授

〇場 所：金沢大学サテライト・プラザ  
講義室

〇来場者：20名



## RIトレーサー実験講座

12月10日、アイソトープ関連研究（特にPETを用いた基礎・臨床研究）の活性化と地域産業へのシーズの提供に資することを目的に、今年で5回目となるRIトレーサー実験講座が開催され、教職員及び学生約30名が受講した。



「PETを用いた脳神経機能測定用分子イメージング剤の開発の現在と未来」と題する塚田秀夫氏（浜松ホトニクス中央研究所PETセンター長）の講演に耳を傾ける受講者＝学際科学実験センターアイソトープ総合研究施設

## 関西学生リーグDiv. I 入替え戦惜敗

本学アメリカンフットボール部は、11年連続で秋の北陸学生リーグ戦を全勝優勝し、北陸学生代表として11月28日、関西学生リーグDiv. II (Aブロック) 1位の名門京都産業大学と入替え代表決定戦を行い、21対14で完勝した。その結果、京都大学や関西学院大学、立命館大学など強豪8チームが所属するDiv. I への挑戦権を得、12月11日、大阪長居球技場でDiv. I で7位の近畿大学と入替え戦を行った。結果は、終盤の激しい追い込みも一歩届かず、

20対27と惜敗し、残念ながらDiv. I 加盟は次回に持ち越しとなった。しかし、その健闘ぶりは多くのマスコミの注目を浴び、挑戦者魂は新チームに引き継がれた。



京都産業大学との代表決定戦で(白ユニフォームが本学チーム) = 11月28日、大阪長居球技場

## 留学生と楽しく交流 - 留学生懇談会 -

12月2日、金沢大学留学生懇談会が工学部秀峯会館で開催され、留学生約150人のほか、金沢大学国際交流後援会や地域の留学生交流団体などから総勢約270人が出席した。懇談会では、留学生によるタイの踊りやパントマイム、留学生もメンバーに入っている森山もみじ太鼓クラブによる太鼓演奏が披露され、出席者らは楽しいひとときを過ごした。



留学生による勇壮なバチさばき

## 角間の里山でお餅つき

12月11日、里山メイトは昨年の行事の締めくくりとして、餅つきをした。参加したのは、子どもから大人までの約100人。そのほとんどがキタダンでの米づくりに関わった人たちであった。今年ついたのは、収穫したもち米とアワとキビをあわせて15kg。小さな子どももきねの重さに負けず、上手についた。

水田復活グループのメンバーは、お餅を食べながら「来年は雑木林の落ち葉でたい肥をつくる」「竹炭や竹灰を使って土壌を改良する」など新しいアイデアを発表していた。キタダンでのお米作りは、来年も新しい展開を見せてくれそうである。



小さな子どもも交代できねを持った

## ベトナムから「シンチャオ! (こんにちは)」

平成13年に教育学部附属養護学校と姉妹校協定を結び交流を行っていたベトナムのヤーディン障害児学校を教育学部教員、養護学校教職員、生徒代表及びバレイ講師の13名が訪れ、同校の課外活動「ハッピーバレイ」をヤーディン校の表現会で発表した。また、インターネットによるテレビ電話でネット交流会を行い、ヤーディン校の生徒5名と同校陸上部の生徒9名が、それぞれパソコンの画面を通じて笑顔で手を振り合うなど言葉の壁を越えて思いを伝わせた。同校生徒の「これからも仲良く」の言葉に「陸上の練習頑張る」とのエールが送られた。



ヤーディン校の生徒が画面の向こうの養護学校生徒に「シンチャオ!」

## 編 集 後 記

今月号の冒頭に、新春の曙光に映える自然科学研究科棟を載せた。この秋までに、一部の施設を除いて工学部が自然科学研究科棟への移転を終えると、医学部を除く7学部7研究科が角間キャンパスに集結する。昭和55年11月に移転地を角間に決定して以来、四半世紀を経てようやく総合移転事業も完了に近づく。移転の功罪は色々語られるが、学生・教職員が1つのキャンパス内に歩いて行ける範囲にいることは、学部間の学生の交流や異なる分野の教員の共同研究などが促進されるというメリットがある。いよいよ、金沢大学の総合大学としての強みを発揮できる舞台が整ってきた、と思う。(R)

平成17年1月21日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
編集 金沢大学広報室

TEL 076-264-5024  
FAX 076-234-4015

- ◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ)) (アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
- ◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。